



はるみ

清見×ポンカン F-2432

果樹研究所興津の育成品種

樹勢は中、着果負担による隔年結果性が強い。
カイヨウ病に弱い。

果実は 200g 程度で、着果が少ないとデコがでて不揃いの果実となる。

露地の成熟期は1月～2月、果皮は柔らかく剥きやすく種子少ない。じょうのう膜薄く、袋ごと食べられ食味がよい。

果皮が弱いため越冬栽培ができるところが最適であるが、寒いところでは袋かけが必要。

寒害を避け、早く出荷すると果実品質が劣る。

全国の生産量は、平成15年産で、1,251t、栽培面積は 233.2ha、愛媛県、広島県で生産が多い。県内の栽培面積は 10.0ha、特に有田地域や紀北で栽培面積が多い。

果実品質は無加温ハウスで糖度 11.0(Brix)、クエン酸 0.62% (2006.2.14 分析、2006.1 月中旬収穫)